たねっと
Tanet
vol.60 2025.9.30

1P 近江町市場を訪ねて「加賀野菜」
2･3P 石津代表にインタビュー「米の話」
4･5P 「種もみ王国」富山県を訪問
6P 2025 年度都道府県の主要農作物(米･麦･大豆)の
種子生産に関するアンケート調査結果報告
第 17 回ワーカーズ･コレクティブ全国大会 inTOKYO
7P 遺伝子組み換えでない表示市場調査学習会報告
8P 第 2 回小口広太さん講演会案内
会員募集･会員数　編集後記

金沢市民の台所、近江町市場の有限会社北川食品は創業 80 年。北川さんと加賀太きゅうり。

加賀百万石の食文化を支えてきた 伝統野菜「加賀野菜」を訪ねて

8 月 23 日、石川県金沢市「市民の台所」と呼ばれる近江町市場を訪れ、加賀野菜を取材しました。市場は江戸時代から続く歴史を持ち、鮮魚や青果をはじめ多彩な食材が並び、活気に溢れていました。

「加賀野菜」は、風土や農の知恵が育み、加賀百万石の食文化を支えてきた伝統野菜で、15 品目認定されています。しかし、お話を伺った北川食品の北川さんによれば、生産者の高齢化や気候変動の影響で生産量が減少、流通量が減っているとのこと。肉厚で柔らかな「ヘタ紫なす」の生産者は、現在わずか一人だそうです。

流通量が少ないことで価格が上がり、普段使いの野菜でなくなってしまうことで、伝統の味が消えゆく危機にあります。こうした課題は各地の在来作物に共通しています。地域の種が、地域の食をつくります。私たちが地域の食材を知り、日々の食卓に取り入れることは、単に味わうだけでなく、その土地に根差した種を未来につなぐ一助となると思います。　（運営委員　岡﨑仁壽）